

2006年度 当面の施政方針

2006年第1回市議会定例会の開会に当たり、当面の施政の方針について申し述べます。

私は、さきの市長・市議選挙におきまして多くの市民の皆様のご支援をいただき、本日ここにご列席の皆様とともに当選の榮に浴し、昭和33年に町田市ができて以来、4人目の町田市長になりました。方針を述べるに当たりまして、ここに町田市の発展に貢献された先人のご努力に心から感謝申し上げます。

私は今、歴史と先進都市の伝統、そして進取の精神にあふれるこの町、町田市の行政運営を担当することに大いなる責任と緊張感を持って臨んでいます。そして、新しい市長として市民に信頼される町田市政の実現に全力を挙げて取り組んでいきます。これからの市政の運営について、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いを申し上げます。

昨年来、多くの市民の方々にお会いをし、話し合いを重ねてきました。高齢者の介護の問題、子育て、教育、防犯、緑地、農業、環境問題、そして商工業振興など、市民生活を取り巻く課題は数多くあります。市民の皆様がそうしたさまざまな分野で問題の解決と地域の発展のためにお互いに協力し、活躍されていることに改めて敬意を表します。

市民の皆様のごそうした活動にはそれぞれに将来への希望があり、課題や不安もまたあります。話し合いの中では市政の変革への期待もあり、また、政策への要望、さらには市政運営への苦情やご批判もいただきました。私は、新しい町田の市長として、41万市民の皆様とともに活動し、市民の皆様のご1つ1つの活動について市役所職員とともに支援をしてみたいです。

新しい時代になりました。我が国全体の人口が減少する中で高齢化が進むという時代になりました。また、企業活動についても、その社会的責任が厳しく問われる時代になりました。そして、私たち自身でつくっているこの社会全体のモラルといったものが崩れかかっている、そういう時代に差し加かってきました。この町田も例外ではありません。

市民1人1人の人権が尊重された公共の福祉を追求し、社会全体の利益のために活動する公の仕事の責任はますます大きくなっています。信頼、これは公の仕事に携わる市役所にとって最も大切な存在意義、存在価値です。市民から信頼される市役所でなければ、存在している理由はほとんど失われてしまいます。市民の疑問に率直に答えられない職員は市政への不信を招きます。正しい、公正な仕事、隠し事をしない透明で開かれた行政運営、そして、専門的知識と技術を持って仕事をする、そういう仕事の仕方から信頼という最も大切な価値は生まれます。

ここで、選挙を通じて議論がありました2つの課題について考えを申し述べます。

1つは、新市庁舎建設です。この計画については、これまでの検討の経緯と内容を尊重して進めてまいります。その上で、市庁舎の機能のあり方、交通計画、建物の規模など、幾つかの課題について検討を加え、計画を詰めてまいります。

もう1つは、廃プラスチックの中間処理施設の問題です。凍結されている計画は白紙に戻します。その上、この問題を含め、ごみ問題全体について、早期にごみゼロ都市宣言ができるよう、広く市民の皆様とともに考える検討、協議の場をつくります。

私は、41万市民1人1人があすへの希望を持てる町、他都市に誇れる先進都市としての町田、そして、市民と協働で運営する市役所づくりのために、これからの市政運営に全力を挙げて努めていきます。町田市のさらなる発展を目指し、ここにご列席の議員の方々と建設的な意見交換をしながら、ともに衆知を集め、力を合わせてまいりたいと存じます。重ねて皆様方のご理解、ご協力を切にお願いを申し上げます。

以上をもちまして私の発言を終了とさせていただきます。ご清聴、大変ありがとうございました。